

## 執筆者紹介

### 細見 和之 (ほそみ かずゆき)

京都大学 大学院人間・環境学研究科教授。大阪文学学校校長。独・ポーランド・ユダヤ文学および思想。著書に『「投壘通信」の詩人たち 〈詩の危機〉からホロコस्तへ』（岩波書店、2018年）、『石原吉郎 シベリア抑留詩人の生と詩』（中央公論新社、2015年）、『ディアスポラを生きる詩人 金時鐘』（岩波書店、2011年）ほか。

### 〈編者〉岡 真理 (おか まり)

1960年生まれ。京都大学 大学院人間・環境学研究科教授。現代アラブ文学／パレスチナ問題。著書に『アラブ、祈りとしての文学』（みすず書房、2008年／新装版2015年）、『ガザに地下鉄が走る日』（みすず書房、2018年）、『棗椰子の木陰 第三世界フェミニズムと文学の力』（青土社、2006年、新書版、2020年）など。訳書にターハル・ベン＝ジェルーン『火によって』（仏語、以文社、2012年）ほか。中東現代文学研究会代表。科研基盤研究(A)「トランスナショナル時代の人間と「祖国」の関係性をめぐる人文学的、領域横断的研究」代表。